



当院の回復期 リハビリテーション病棟

今回は当院が提供するリハビリテーション医療の発信拠点でもある「回復期リハビリテーション病棟」を紹介させていただきます。現在60床で運営していますが、今年の1月、県下初の「回復期リハビリテーション病棟入院料1.」という診療報酬上の最上ランクを取得しました。

この病棟にあって私たち看護師は、看護部の理念に基づいて、患者の状態に合わせた機能障害の回復と社会復帰を目標として、日々在宅復帰に向けての支援をさせていただいています。病棟では医師・看護師・介護職員・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・薬剤師・管理栄養士・ソーシャルワーカー等の専門多職種がチームを組んで、情報を共有し、患者とその家族の方々と一緒になって問題解決に取り組んでいます。とりわけ、リハビリテーションの継続という点では、私たち看護師とリハビリテーションを行うセラピストとの綿密な情報連携と協働はたいせつです。

さて、回復期リハビリテーション病棟の役割についてですが、回復期におけるリハビリテーションでは、衣類の着脱、移動、食事、入浴、排泄等の日常生活に必要な動きができるようにしていくことを目的とします。脳血管疾患では150～180日、大腿骨頸部骨折等では90日を入院期間の目標としています。私たち看護師は患者が安心してリハビリテーションが行えるように、病状の把握、異常の早期発見、生活習慣病の管理、指導を行っています。介護職員は日常生活動作の全てを患者の状態にあった介護方法で支援します。加えて、身体的な援助はもとより、精神的支援にも力を注いでいます。平成25年4月からは「摂食・嚥下チーム」「排泄チーム」「遊びりチーム」「入退院調整チーム」「看護必要度チーム」を発足させ、技術はもとより患者一人ひとりの痛みを分かち合い、心に寄り添える看護・介護を目指し、回復期リハビリテ-

ーションの充実に取り組んでいます。各チームの取り組みを紹介します。「摂食・嚥下チーム」は病棟スタッフが統一した専門的知識や技術を獲得できるように働きかけ、言語聴覚士とともに患者が安全に経口摂取できるように働きかけます。「排泄チーム」は患者の尊厳の維持に努め、QOL（生活の質）向上のために最善のケアが行えるように取り組んでいます。「遊びりチーム」は24時間継続したリハビリテーションを行うために、患者に合わせたプログラムを考えて、看護師・介護職員が協働します。「入退院調整チーム」は入院時点から退院後もその人らしい生活が送れるように地域連携室と共に在宅復帰の実現に向けての援助を行います。「看護必要度チーム」は日々の看護記録から日常生活機能指標を算定し、その算定を病棟スタッフ全員が確実にできるように指導を行い、意識の統一を図ります。

回復期リハビリテーション病棟における現在の取り組みの一端を紹介させていただきましたが、今後ともよりいっそう質の高いリハビリテーション看護の提供を目指していきます。当面は全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会の認定看護師の育成を計画しています。

まだまだ未熟な病棟ですが、多職種連携と協働のチーム力にいっそうの磨きをかけ、患者や家族の方々から、「琵琶湖中央病院の回復期リハビリ病棟に入院してよかった」と思っただけのような病棟に育てていきたいと思えます。ご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

回復期リハビリテーション病棟
看護課長 山岡 栄

看護の日

「看護の日」に合わせ、5月15日（水）午後より『ふれあい』をテーマにイベントを開催。今年は、地域の方約30名が参加され、「ナイチンゲール誓詞」の唱和をはじめ、頭の健康体操やストレス度の測定など行い、短い時間でしたが参加者と交流できる良い時間となりました。

